

■第2回 日韓地域看護学会 共同学術集会

メインテーマ Challenge and Innovation on Community Based Nursing.

会期：2011年7月17日（日）・18日（月）

会場：神戸市看護大学

主催：日本地域看護学会 韓国地域看護学会

保健師の仕事に対する満足度と参画力や効き脳との関係

○吾郷美奈恵，石橋照子，梶谷みゆき，三島三代子（島根県立大学短期大学部）
今野香織（フォルティナ株式会社）

【目的】 保健師の職務満足度と参画力や効き脳の関係性を明らかにし，キャリア形成するためのアプローチについて検討する。

【方法】 対象はA県の7つの保健所等と3つの市で働く保健師からモニターとして協力の得られた者で，管理者と採用3年未満の者は除いた92名である。調査はインターネットを活用したシステムを開発して行ない，対象者への依頼文書等は保健師の代表者に配付を依頼し，ランダムに割り当てたパスワードで各自がデータを入力する方法である。調査内容は，仕事に対する満足度（最高100）と参画力（最高60）や効き脳診断やである。効き脳診断はハーマンモデル理論（大脳生理学）をベースに開発され，大脳が最初に反応する第一感情を測定することによって，脳の思考特性とその特徴を可視化・数値化するもので「論理・理性脳」「堅実・計画脳」「感覚・友好脳」「冒険・創造脳」による4側面で，200指標のバランスである。また，分析はSPSS16.0を用い，Pearsonの相関係数で示した。

【倫理的配慮】 この研究は，島根県立大学短期大学部研究倫理審査委員会の承認を得，研究の主旨や評価とは関係ないことなどの倫理的配慮について文書と口頭で説明し，自由意思による協力を求めた。また，調査は無記名で行い同意の最終判断はデータの入力が完了した時点とした。

【結果】 対象は全て女性であり，経験年数：18.2±9.1年，仕事に対する満足度：69.6±16.7，参画力：43.2±5.8，論理・理性脳：49.6±10.7，堅実・計画脳：44.1±13.9，感覚・友好脳：64.1±14.9，冒険・創造脳：41.7±15.0であった。満足度と有意な関係を認めたものは，経験年数（ $p<0.05$ ），冒険・創造脳の指数（ $p<0.05$ ），参画力（ $p<0.01$ ）で，これらが高いほど満足度も高かった。また，参画力と効き脳診断は有意な関係にあり，論理・理性脳と冒険・創造脳は「正」，堅実・計画脳と感覚・友好脳は「負」の関係にあった。

【考察】 効き脳を理解することは，自分自身の思考特性を認識するだけでなく，他人の考えること，すなわち自分とは異なる他人の言動を理解する助けになると思われる。また，脳の思考特性は天性3割，後天7割と言われ，働く環境や役割等に応じて変化することから，所属や仕事内容などに応じて効き脳は異なることが予想され，個人のスキルアップやキャリア開発に活用できると考えられる。